

## アートと地域振興

「地方創生」をテーマに、全国各地で様々な施策が実施されている。各種の取り組みの中で「芸術祭」を活用した事例に着目し、地域振興における可能性を考えたい。

アートを活用した地域活性化の事例は、全国で確認される。例えば、瀬戸内海に位置する香川県の直島では、「瀬戸内国際芸術祭」が開催されている。瀬戸内海の島々を舞台に、現代アート鑑賞が可能なイベントで、約 100 日の会期中の延べ来場者数は 100 万人を超える。また、新潟県の越後妻有地域で開催される「大地の芸術祭」は、約 50 日の会期で延べ 50 万人超の来場者規模を誇っている。

アートを活用したイベントは県内でも確認できる。亀山市では、2014 年頃から「亀山トリエンナーレ」が開催されており、現代アートの作家による「まち」の空間内に溶け込む作品の創作・展示が行われている。08 年に前身のイベントが立ち上がって以降、開催の都度規模を拡大し、17 年の開催時には延べ 2 万人の来場者、101 組の国内外のアーティストが亀山市を訪れた。(20 年の開催はコロナ禍の影響で延期となったが、今回は今年 10 月の開催が予定されている)

芸術祭の開催には、(1) 地域関係者の交流・協働 (2) 外部人材との交流 (3) 地域資源の新たな視点での活用——などの効果が期待されている。筆者は (3) の「地域資源の新たな視点での活用」の可能性にとりわけ注目している。なぜなら、芸術祭で制作・鑑賞される作品は、開催地の環境に溶け込むようデザインされたものが中心であり、来訪者に対しては「その地域の魅力を知る機会」、開催地に対しては「その地域の魅力の再発掘、再発見」という価値を発揮しうるためである。作品のみならず、準備を含めたプロセスに価値を見出せるのである。

地域というキャンバスに何を表現するか。アートによる地域の盛り上がりの可能性に、今後益々注目したい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 中村 哲史)

毎日新聞「三重～る経済」 2021 年 6 月 15 日